

# 暖地型シバ草種「センチピードグラス」による放牧地造成法

## 畜産試験場 草地飼料担当

遊休農地を活用した放牧や荒廃果樹園を活用した放牧が普及しつつあることから、夏季シバ型草地と冬季イタリアンライグラス草地による集約的な周年放牧技術の実証を行うため、シバ型草地を種子造成する場合の造成方法及び造成後の管理について、センチピードグラスを用いて実用規模で検討したので紹介する。

### 【普及したい技術のポイント】

- ①センチピードグラスの播種量は蹄耕法、耕起法いずれも10a当たり1.0kgで造成2年目の被度が70~90%程度となる。
- ②蹄耕法によるセンチピードグラスの放牧地造成は作業時間、経費が抑えられ、ススキなどの既存草を利用することにより造成1年目から放牧できる。
- ③耕起法によるセンチピードグラスの放牧地造成は定着が早く早期造成が可能である。

### 【造成方法】

- ・ 場 所  
畜産試験場内クヌギ林（標高650~700m）
- ・ 面積：1.7ha
- ・ 播種量  
10a当たり1.0kg
- ・ 播種時期  
2月下旬に火入れ等により前植生を抑え、5月上旬に播種。
- ・ 播種方法  
蹄耕法：散粒機等により播種すると同時に放牧を行う。  
耕起法：ロータリによる耕起・播種・ローラによる鎮圧。既存草の状態により放牧開始時期を検討する。

1ha当たりの造成作業時間は蹄耕法区で1.2時間、耕起法区で13.7時間となった。また、造成経費については蹄耕法区、耕起法区で大きな差はなく、10~11万円程度であった（表1）。

表1 作業時間と造成経費

区 分	作業人数 (人)	作業時間(時間 /ha)	造成経費(円/ha)
蹄耕法	1	1.2	104,457
耕起法	1	13.7	118,683

※作業時間には圃場移動、資材準備等は含まない。

※蹄耕法は散粒機による人力播種、耕起法はロータリ耕起後人力播種、K型ローラによる鎮圧。

※造成経費は種子代、労働賃金の合計。

※労働賃金については農林水産統計農業物価指数平成15年度（概算）農業臨時雇賃金（男）8,671円/日として算出。

### 【播種後の管理放牧】

- ・ 放牧牛  
繁殖成雌牛 常時5頭放牧
  - ・ 1年目の管理放牧期間  
5月上旬~下旬  
6月下旬~9月中旬
  - ・ 2年目の管理放牧  
5月上旬~下旬  
6月中旬~10月上旬(センチピードグラス主体)
- 1年目の蹄耕法による造成では既存草（ススキ等）が優占しており、乾物収量は62.6kg/10aであったが、牛の可食部分が減少したため5月下旬から6月下旬まで休牧した。6月放牧開始時の乾物収量は114.5kg/10aとなり、以降は既存草主体の放牧で放牧期間は6月下旬から9月

中旬となった（図1）。

2年目の4月及び5月はススキ、ハルガヤ等が優先していたため、5月上旬から下旬まで管理放牧を行い、以降はセンチピードグラス主体の放牧で6月中旬から10月上旬までの放牧となった。

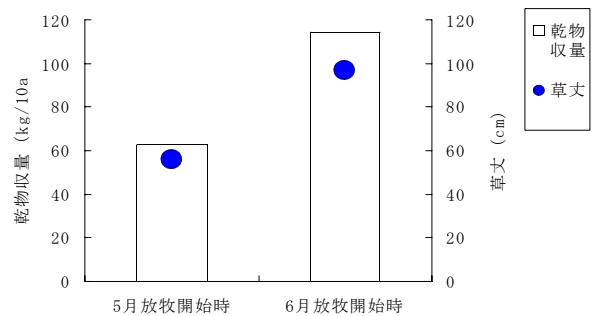


図1 既存草（ススキ）の乾物収量と草丈

### 【センチピードグラスの被度】

播種1年目の被度は8月が蹄耕法区7.7%、耕起法区21.9%と既存草及び雑草の被度が大きく上回っていたが、9月は耕法区21.0%、耕起法区51.2%と耕起法区で雑草被度を上回っていた。10、11月の被度に大きな変化はなかった。2年目の被度は9月に耕起法区で96.8%、蹄耕法区で76.8%となった（図2）。

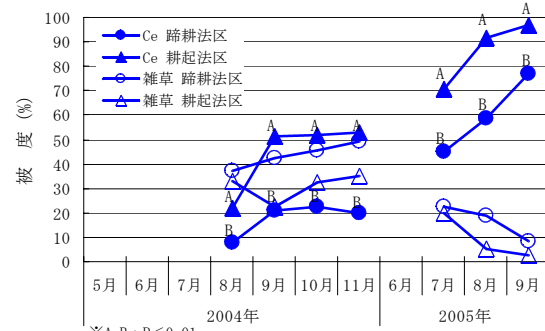


図2 Ce被度の推移